

2018年10大ニュースと総選挙の行方

辻本 浩一郎

2019年も早くも2月に入りました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

<2018年タイ 10大ニュース>

毎年恒例、昨年のタイ当地10大ニュースを挙げてみたいと思いましたが、2018年は、私見的には、それほど大きなニュースはなく、政治的にも経済的にもとても安定した年であったかと思います。

あるニュースを見ていると、2018年のタイ10大ニュースについて下記のように掲載されていました。

- 【1位】 GDP 成長率が12年以來の4%台に
- 【2位】 EEC 開発前進、インフラや投資誘致
- 【3位】 新車市場、5年ぶり百万台見通し
- 【4位】 総選挙への日程、大筋固まる
- 【5位】 商業施設の開発相次ぐ、日系撤退も
- 【6位】 中国人旅行者が急落、観光業に打撃
- 【7位】 米中貿易摩擦に懸念、輸出は8%成長も
- 【8位】 不動産市場活況も新規制で引き締めへ
- 【9位】 EV生産・販売、各社が投資計画
- 【10位】 プラごみ削減、小売・飲食業界に機運
- 【番外編】 洞窟に18日間、少年ら13人を奇跡の救出

2018年のタイの新車市場が5年ぶりに100万台を超えることが確実となりました。自動車生産台数も5年ぶりに200万台を超える見通しで、自動車産業を中心に上向き、国内総生産(GDP)成長率は6年ぶりの4%を超え、2018年のタイ経済はとりわけ内需の拡大を実感させる1年でした。

番外編に挙がっている、世界中が注目したチェンライ県タムルアン洞窟の遭難事故ですが、無事、コーチ1名と少年12名の計13名が救出されました。

少年たちは、不幸な出来事を体験したタイ男性の習慣にのっとり、一時的に出家して仏僧として修行しました。その後、少年たちは英雄となり、ユース五輪やプロのサッカー試合観戦に招待されて海外を周りました。

<民政移管総選挙>

軍事政権は経済安定化に道筋をつけ、3月24日に民政移管の総選挙を実施することになりました。

2014年5月の国軍によるクーデター以来、4年10カ月ぶりに民政移管への第一歩が始まります。

軍事政権にとっては、国外逃亡中のタクシン元首相派の復活を阻止できるかが最大の課題となるでしょう。

選挙制度が改革され、下院は定数500で、小選挙区350、比例代表150の議席を、有権者1人1票の併用制で争う方式となります。大政党には不利で、選挙結果は多党分立になる可能性が高いと予想されます。

選挙結果における多党分立を予想して、タクシン派は貢献党の有力者をあえて友党に移籍させ、分散して1人でも多くの当選者を確保する戦術に出ており、一方、軍政支持の「国民国家の力党」は、貢献党から多くの有力者を引き抜き、貢献党の体力を奪う作戦です。

選挙後の次期首相選出に関しては、軍政が議員を任命する上院(定数250)の存在が大きく影響し、憲法が定める移行期間の規定として、次期首相は上下両院の合同会議の過半数で選出することになります。

2018年12月の調査結果では、政党の支持率は貢献党が31.8%で首位、2位の国民国家の力党は19.9%でした。次期首相に推したい人物としては、プラユット首相の支持率が27%と首位で、貢献党のスタラット氏は18%で2位でした。

私見としては、選挙結果は多党分立となり、連立政権によって国民国家の力党一派が与党となり、次期首相は下馬評通り、プラユット首相が続投し、実質的な軍政が続くものと予想しております。そして、経済政策としても、軍政が推進してきた東部経済回廊(EEC)の開発や、産業高度化政策「タイランド4.0」、「10大重点産業(Sカーブ産業)」の積極誘致など、国家20戦略が続いていくものと思われる。

<ワチラロンコン国王陛下時代の幕開け>

ワチラロンコン国王陛下の時代の幕開けとして、2019年5月4日に戴冠式、翌日5日にパレードが執り行われることが発表されました。

総選挙後の戴冠式ということで、ワチラロンコン国王陛下の新治世のもと、現在の国家課題である国民和解への解決への道筋が見えた中で、国民全員でこの慶事を迎えられることを強く念じています。